

学校だより

令和3年1月25日



第10号  
TEL241-2605

甲府市立大里小学校 文責:長谷川和典

## 令和3年、新たな気持ちで さあ、スタート!

令和3年がスタートしました。

保護者の皆様、地域の皆様、いつも本校を温かく見守り、励まし、お力添えをいただいていますことに心より感謝申し上げます。本年も皆様方のご支援・ご協力をいただきながら、子供たちのより良い成長のために一層の努力をしていく所存です。皆様方には、どうぞ今後も変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

1/12(火)3学期始業式の日、静かだった学校に元気な子供たちの姿が戻ってきました。新型コロナウイルス感染症が急拡大する中を冬休みに入ったので、大里の子供たちが元気に過ごしていたかどうか気がかりでした。

始業式では、次のような話を子供たちにしました。

～略～ 3学期は「1年間のまとめの学期」とよく言われますが、4月からの新しい学年に向けての「準備の学期」でもあります。1年生は2年生に、2年生は3年生に、そして6年生は中学1年生にそれぞれ進級・進学します。ですから、今の学年で身に付けておかなければならないことは、今の学年のうちにしっかり身に付けなければなりません。学習面も、生活面もです。次の学年への準備のために、具体的に何をするのか、その“めあて”をたて努力をしてください。

特に、6年生のみなさん。3月にはいよいよ卒業です。しかし、みなさんのゴールは卒業ではありません。みなさんのゴールは、4月に、自信を持って中学生としてのスタートラインに立つことです。そのためには、自分のこと、学級や学年の仲間のこと、そして全校のことを見つめ直し、自分には、どのような準備が必要かをよく考えて準備を進めてください。～略～

一年の節目として、新たなスタートを切るこの時期。コロナ禍で先の見えない不安感・閉塞

感が強く感じられる中ですが、少しでも夢や希望に満ちた令和3年を充実して過ごせるように、3学期も元気に進んでいきたいと思えます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 節分、邪気を追い払おう!

2月の代表的な季節行事といえば「節分」。立春の前日のことを指します。既にご存じの方も多いとは思いますが、2月3日のイメージが強い「節分」も、今年は「2月2日」です。調べてみると、3日でないのは、1984年2月4日以来、37年ぶり。2日になるのは、1897年以来124年ぶりになるそうです。

本来、節分とは季節の節目である「立春、立夏、立秋、立冬の前日」のことをいい、年に4回あります。ところが、旧暦では春から新しい年が始まったため、立春の前日の節分(2月3日頃)は、大晦日に相当する大事な日でした。そこで、立春の前日の節分が重要視され、節分といえばこの日をさすようになったそうです。

昔は、季節の分かれ目、特に年の分かれ目には邪が入りやすいと考えられており、さまざまな邪気(鬼)祓い行事が行われてきました。おなじみの豆まきも、新年を迎えるための邪気祓い行事です。

子供にとっても楽しみな行事の一つかもしれませんが、自分自身、家中の戸を開け放して「鬼は外!福は内!」と大きな声で唱えながら、祖父と一緒に豆まきをした子供のころのことを今でもよく覚えています。

四季折々の年中行事の一つとしていつまでも大切にしていきたいものです。



## 日常生活を営む上での基本的な生活様式



◆引き続き子供たちの健康管理、  
感染予防をお願いします。

## Kofu Dream Campus (12/22)

## 6年生の教室を のぞいてみました！

昨年末、大里小出身で、現在、ジェフシティ市原千葉でプレーしている堀米勇輝選手が「夢先生」として来校され、5・6年生を前に夢を持つことの大切さについて話をされました。

まずは、簡単な運動で体を動かしてリラックス。子供たちの代表数名と一緒にリフティングやパスも。サッカーのようなチームスポーツでは、コミュニケーションが大切なことやお互いのミスをカバーし合うことが大切といったことも、子供たちに話していただきました。



その後、堀米選手から、夢を持ち夢を追いかけてきた自分自身の小学校時代の話や、自分の夢の達成に向け、サッカーに情熱を傾けてきたお話がありました。



つらい時、ネガティブな感情が浮かんできた時には、自分にポジティブな言葉を投げかける。(心の底から自分を励ます。)「〇〇だからできないかもしれない。〇〇だからなれないかもしれない」ではなく、なりたい自分に対して今どうあるべきなのかということをしっかり考えて行動する。『行動・

結果・あり方』(堀米選手は、サッカーが好きで、練習が好きで、ひたむきに練習に取り組んできた。)など・・・子供たちにとって示唆に富んだお話がたくさんありました。

今回、久しぶりに母校の後輩を前に話をされたそうです。シーズン終了直後のお忙しい中を、本当にありがとうございました。子供たちにとって、最高の学びの場となりました。



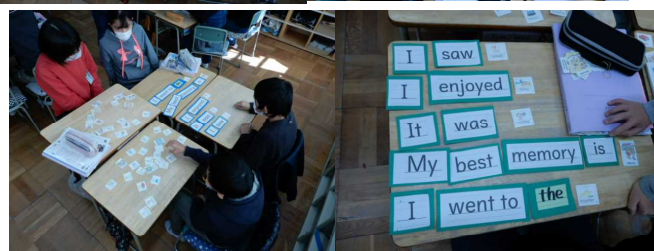
最後になりますが、堀米選手のますますのご活躍を、全校児童・職員、心から願っております。

この日の2校時、6年生の教室では外国語科の授業をしていました。ちょうど、ネルーシャ先生の話聞いた後らしく、時間内に机上のカードを並べかえ、聞き取った文(5文)を完成させるというゲームをしていました。グループで力を合わせ取り組んでいる子供たちの様子はとても楽しそうでした。

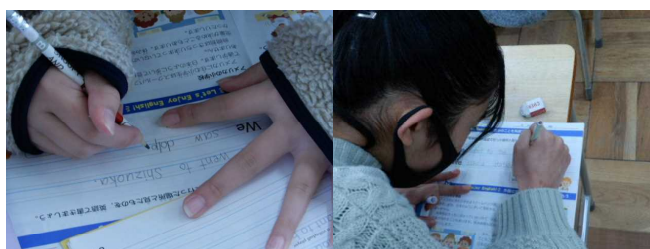
ゲーム終了後、次の活動では、修学旅行でどこへ行き、何を見てきたのかを文に書いていました。参考になる文はありますが、短時間に書き上げる姿には驚きました。さらに、ドリルをチェックしてもらう際には、“What’s this?” “It’s a 〇〇.”と、先生が子供一人一人とやりとりもしていました。(その日によってターゲットが入れ、質問の内容が違うようです。)

10分ほどしか学習の様子を見ることができませんでしたが、それだけの時間の中にも「聞くこと」「書くこと」「話すこと(やり取り)」の要素が盛りこまれており、様々な能力の育成に取り組んでいることがわかりました。

これからも楽しく、日常的に外国語に親しんでいければと願っています。



みんな集中して聞いていたようです！



“We went to Shizuoka. We saw ~.”